

国立大学法人奈良先端科学技術大学院大学
経営協議会（令和5年度第1回）議事要旨

1. 日時 令和5年6月27日（火）13:00～15:10
2. 場所 事務局3階会議室、オンライン会議
3. 出席者(参集) 塩崎議長
加藤、太田、小谷、西村、山本の各学内委員
浅見、飯田、後藤、小紫の各学外委員
(Webex) 手代木、長谷川、藤沢、ベントンの各学外委員
欠席者 土井学内委員
板東学外委員
出席監事(参集) 西村、春本の両監事
陪席者(参集) 蜂谷、久保（慶）の両課長
(Webex) 井村部長
川村、久保（信）、田中、筒井、東、多田の各課長
4. 配付資料
資料1-1 経営協議会関連規則（抜粋）
資料1-2 国立大学法人奈良先端科学技術大学院大学令和5年度経営協議会委員一覧
資料2 国立大学法人奈良先端科学技術大学院大学経営協議会（令和4年度第4回）議事要旨（案）
資料3 学長選考・監察会議委員の選出について
資料4 令和4事業年度決算
資料5 令和6年度予算に係る運営費交付金概算要求について
資料6 令和6年度施設整備費等概算要求事業（案）
資料7 第4期中期目標・中期計画期間における業務達成基準を適用する事業について
資料8 令和5年度国立大学法人奈良先端科学技術大学院大学運営体制
資料9 本学の主な動き（令和5年3月～令和5年6月）
資料10 第3期中期目標期間に係る業務の実績に関する評価結果について
資料11 国立大学法人における会計監査人の選任について（通知）
資料12 奈良先端大サポーターズクラブの設置について
資料13 令和5年度外部資金の受入れについて

議事に先立ち、資料1-1～2に基づき、議長から本会議の趣旨及び委員の構成についての説明、学内委員の紹介及び学外委員の自己紹介が行われた。

5. 議事

（前回議事要旨の確認）

資料2の令和4年度第4回の議事要旨（案）について、原案のとおり承認した。

(審議事項)

(1) 学長選考・監察会議委員の選出について

議長から、資料3に基づき、経営協議会学外委員のうちから選出する学長選考・監察会議委員について説明があり、審議の結果、浅見委員、後藤委員、手代木委員、板東委員及び藤沢委員の5名を選出した。

(2) 令和4年度決算について

小谷理事から、資料4に基づき、令和4年度決算について説明があり、審議の結果、原案のとおり承認した。

(主な意見等は、以下のとおり)

・令和4年度末の寄附金債務の金額が約7億円となっているが、この金額は大学として平均的な金額なのか。

→本学の寄附金には、教員個人の研究支援のための助成等が大半であり、大学の組織として自由に使うことができる寄附金の金額は、かなり少額である。

・卒業生等に寄附を呼びかけるといったことはしているのか。

→修了生への寄附の呼びかけは現時点ではできていない。寄附金をいかに拡大していくかという点では、様々な工夫をしているところで、新たな取り組みを進めているところである。

(3) 令和6年度概算要求(教育研究組織改革分、基盤的設備等整備分)について

小谷理事から、資料5に基づき、令和6年度概算要求(教育研究組織改革分、基盤的設備等整備分)について説明した後、船津データ駆動型サイエンス創造センター長及び河合物質創成科学領域教授から補足の説明があり、審議の結果、原案のとおり承認した。

(主な意見等は、以下のとおり)

・国際研究を進めるために、若手の博士号取得者を長期的に交換したり、海外の助教を雇用して先方とのパイプ役として活用するといったことは考えているか。

→今回の概算要求事業に限らず、国際的な若手人材について積極的に受け入れたいと考えている。その方法の一つとして、ダブルディグリー制度を積極的に進めている。若手の研究者を本学と海外の双方で育てながら、研究者として育成をしていく形で、若手の研究者から次の学問分野、教育分野を含めて育てていくことを積極的に推進している。

(4) 令和6年度施設整備費等概算要求事業について

小谷理事から、資料6に基づき、令和6年度施設整備費等概算要求事業について説明があり、審議の結果、原案のとおり承認した。

(5) 第4期中期目標・中期計画期間における業務達成基準を適用する事業について

小谷理事から、資料7に基づき、第4期中期目標・中期計画期間における業務達成基準を適用する事業について説明があり、審議の結果、原案のとおり承認した。

(報告事項)

(1) 令和5年度運営体制等について

議長から、資料8に基づき、令和5年度運営体制等について、報告があった。

(2) 本学の主な動きについて(令和5年3月～令和5年6月)

議長から、資料9に基づき、令和5年3月から令和5年6月までの本学の主な動きについて、報告があった。

(3) 第3期中期目標期間に係る業務の実績に関する評価結果について

太田理事から、資料10に基づき、第3期中期目標期間に係る業務の実績に関する評価結果について、報告があった。

(4) 令和5年度会計監査人の選任について

小谷理事から、資料11に基づき、令和5年度会計監査人の選任について、報告があった。

(5) 奈良先端大サポーターズクラブの設置について

議長から、資料12に基づき、奈良先端大サポーターズクラブの設置について、報告があった。

(主な意見等は、以下のとおり)

・東京大学では、寄附の累積額でカテゴリを分けている。また、人目に付くところに寄附者名を記したパネルが設置され、寄附者が分かるようにしているが、そのようなことはしているか。

→大学基金ではミレニアムホールロビーに基金顕彰銘板を設置し、またミレニアムホール内の座席背板に寄附者名を刻印したプレートを掲示している。サポーターズクラブでも、長く貢献いただいた方を顕彰する制度を取り込みたいと考えている。

(6) 令和5年度外部資金の受入れについて

太田理事から、資料13に基づき、令和5年度外部資金の受入れについて、報告があった。

(その他)

(1) リカレント教育と大学院について

議長から、リカレント教育に関する状況について説明を行った後、意見交換を行った。

(主な意見等は、以下のとおり)

・リカレント教育の方向性を出す場合、どういう人を対象に考えるのかが重要である。地域における大学の役割が問われている中で、奈良先端大でしか成し遂げることができないようなこと、特色のあるようなものを打ち出せたら素晴らしい。また、リカレント教育についていろいろなニーズがあり、大学が持っている教育のシーズがあるので、それを合わせて考えた時に、どういった形で際立たせていくか、奈良先端大にし

か成し得ないことがあるのではないか。

- ・リカレント教育は大学にとってもビジネスチャンスがあると考える。
- ・スキルアップや転職のために大学を使うという観点では、上級管理職や、突出した人向けのオンラインでの通信教育一ヶ月コースのようなものを作ってはどうか。修了証書を日本語と英語で出すことにより、経歴として挙げるができるコースを作れば、転職の際に生かされ、また、転職者が優秀であれば、人材スカウトからも奈良先端大が注目されることになるのではないか。
- ・奈良先端大と文系大学との共同で、未来の技術を使った社会像を議論する場や機会を作ると面白いのではないか。企業は、技術をどうやって売っていけばいいか、どんな市場が生まれてくるのか悩んでいるので、新しい市場開発をするためのビジョンづくりといったシンクタンクのようなことをしてはどうか。そして、それに参加することがリカレント教育という形にできればよいのではないか。
- ・例えば、東京大学 エグゼクティブ・マネジメント・プログラムは、非常に金額が高額であるが、その料金を支払って受講しようとする人は、非常にレベルが高く、勉強に対する意欲も非常に強い。
- ・参加した人達がその後のコミュニティを形成し、世代を超えて卒業生が集まり、一つのテーマを持って話せるような環境を整えていくということが、非常に大事になるのではないか。
- ・これからの時代は、サイエンスや技術的なことをきちんと理解している必要があるという意識は、文系の人間にもあるのではないか。比較的、基本的な内容をきちんと理解しておきたいという程度のものであり、奈良先端大のターゲット層とは違うかもしれないが、事務系の職員のそういった要望はあると考える。
- ・リカレント教育の対象者を明確にし、また募集するための広報が重要と考える。優秀な人材、学生や教員を確保したり、寄附を増やしていくということと、リカレント教育のターゲットをどう絞り、どう行っていくのかを一括りで考えることが重要である。
- ・学際プログラムといった、自身の知識源となるような人達との人材交流を行うことができる環境を作ることが重要である。
- ・会社に所属している部長以下の人は、自由な時間が少ないため、地元でのリカレント教育を希望すること、受験のための勉強をしてきただけの人材ではなく、勉強をしたいと思っている人材に参加してもらうような仕組みを作ると、地元で役立つリカレント教育になるのではないか。
- ・現在は半導体が脚光を浴びているが、20年ほど前は半導体に関する人材が削減されていたため、やむを得ず半導体に関する仕事をあきらめて事務系の仕事に就いた人が多い。その人に対して、再度半導体に携わることができるプログラムを作ることができれば、日本の役にも立つ。
- ・リカレント教育の内容として、何らかの特定の技術的なことについてではなく、これからの社会を設計する、もしくは科学技術の行方を再構成するといった、大所高所で社会を捉える元になる、哲学的教養的な内容が求められていると考える。
- ・学際的に、様々な分野の人と繋がりを持つことができる環境を提供するのが重要である。
- ・奈良先端大として、何を、どういう対象に、どういう目的で行うかという方針を考

える際に、できることがたくさんあるため、どこに焦点を当てるかが難しくなるかもしれない。

- ・奈良先端大がリカレント教育をしていることの知名度が低く、何を目標にして、どういったことを行っているかがはっきりしないので、企業側はどういう人間を送ったらいいかが判断できない。広報も含めて考えていく必要がある。

- ・リカレント教育イコールIT、DXに偏り過ぎてしまっており、それ以外のところを企業としては求め始めている。DXに関するリカレント教育を受けた人は、専門性が高いわけではないため、企業として即戦力にはならない。リカレント教育を受けた人をどう活用するかを考えると、こういう価値を提供したいということにフォーカスをしたリカレント教育が企業側からのニーズがある。企業としては、大学院大学ならではのプログラムとして、何を提供できるのか、見えやすい作り込みをしてもらいたい。

- ・あらゆる大学がリカレント教育をおこなおうとしているため、奈良先端大の特徴を生かせるものでないと難しい。技術とリーダーシップを結び付ける必要がある。

- ・今は変化の時代であり、リカレント教育は本当に重要である。

- ・AIの飛躍的な進歩により、研究の方法も変わってくるが、AIをどのように扱えばよいか、チャットGPT等の間違いの見極め方も重要なので、どうやってチャットGPT等を使っていくのかということを教えることを検討していただきたい。

→我々がイメージしていなかった、様々な意見をいただいた。リカレント、あるいは学び直しのあり方として、かなり新しいアイディア、考える方向性をいただいたと感じている。

以 上